



青空のもと 野菜苗植えとイチゴ収穫

朝から爽やかな青空が広がり、農作業日和となりました。今日の主なメニューはリンゴの摘果、ブドウの葉もぎ、ジャガイモやトモロコシの生育観察、カボチャなどの野菜苗植え、イチゴの収穫などとなっています。

1時限目は西本果樹園でリンゴ(レッドゴールド)の摘果。一月前は満開の花でしたが現在は直径1~2cmのかわいらしい実をたくさん付けています。すべての実を生長させると大きなリンゴにならないため中心

果を残して周りの実を摘果(不要な実を摘む)します。「取ってしまうとかわいそう」の声も聞こえましたが意を決して親やスタッフの助けを得ながら作業しました。最終的に収穫されるのは結んだ実の10

分の1くらいになります。10月には樹全体のリンゴを皆で収穫する予定です。

2時限目は八剣山ワイナリーに移動してワイン用ブドウの手入れ。今回はベト病に感染した葉の摘み取りです。ウィキペディアによるとベト病とは露菌病とも言い、湿度が高いときに広がりやすく、このような時期にはべとついた感じになるので「ベト」と呼ばれるようになりました。ブドウや野菜の葉などに褐色の斑点が現れて広がり、進行すると葉の表面にふくらみができて胞子をつくりさらに広がります。



この病気の被害を未然に防ぐため、皆で畑に広がって葉をていねいに見て摘み取りをしました。葉はすべて集められ焼却処分されます。

3時限目は八剣山果樹園でジャガイモ・トモロコシの観察と野菜の苗植えです。5月17日に種イモを植えてから1か月余りで30cmほどに、トモロコシは苗植えのものが30cm、種植えが10cmほどに育っています。自分の手で植えたものが元気に生長しているのを見て「ウー 大きくなって！」と感動



しているお友だちもいました。桜井さんからはこれから収穫までのように経過していくか説明がありました。ジャガイモは8月に、トモロコシは9月に収穫して皆で試食することになっています。楽しみに待ちたいと思います。

野菜苗植えの最初はハロウィンカボチャ(30本)。苗はポットに入っていて約30cmに育ったものを植えます。あらかじめ等間隔に定められた場所にひと株ひと株根を傷めないように注意しながら植えました。



落花生(30本)は初めての試みです。落花生は南アメリカのアンデス地方が原産と言われ、高温乾燥の気候を好みます。“落花生”という名のとおり、受粉すると子房柄(花の根元)が土中にもぐってさやをつけます。育てるには初期生育のスピードを上げるため、ポット蒔きをして育て本葉4枚程度で定植します。北海道ではマルチ栽培が推奨されていて収穫は10月の予定です。



サツマイモ(50本)は昨年に引き続き栽培します。ヒルガオ科サツマイモ属の植物。別名に、甘藷(かんしょ)、唐芋(からいも、とういも)、琉球薯(りゅうきゅういも)。今年も、特に保温に優れている緑色のマルチを用いて30cm間隔の切り込みに従って植えました。他の野菜と異なり、土中に溝を掘って寝かせるように苗を植え土をかけます。今回はペットボトルの水を持参してもらいましたので、最後にその水をかけて終了です。北海道での栽培はかなり天候に影響されるのですが10月に無事収穫できることを祈りましょう。



枝豆も植えました。

4時限目は桜井農園に移動して皆が楽しみにしていたイチゴの収穫です。園主からイチゴ栽培についての苦労や育てるポイントについて話していただきました。露地とハウスの両方が開放され、真っ赤に熟したイチゴを堪能しました。原産地は南米だと言われ、バラ科の植物で多年草。ランナーと呼ばれるツルを育てて9~10月に植え付け越冬させます。5月ごろ花が開き、6月に赤い実



をつける、といったパターンで生育します。多年草ですが、同じ株だと年々実は小さくなってしまいます。毎年新しい苗を育てて植え替えることが良い実をつけさせる上で大事です。連作を嫌うので、その時は必ず新しい畑に植え付けます。

【リンゴ摘果】 リンゴの種類はレッドゴールド。冬には鹿により樹皮や芽が、実を結んでからは野鳥の食害があり、実の数は例年の半分くらい。農業は難しい。



開花後約6週間で直径1~2cmの実が着きました。これは多すぎます。



西本園主が摘果の要領を説明。中心果または元気をうな実を残す。枝を傷めないように。



不要な実を慎重にひねるようにしてやさしく摘みます。



高い所もこうすれば作業できます。

【ブドウの葉もぎ】 八剣山麓の園場（ブドウ畑）ではワイン用のブドウが数ミリの実を付け毎日生長しています。



ワイナリー社長 亀和田さん。どの葉をどのように摘むか見分け方を説明。



下の葉は表面に斑点が見られ、べと病にかかっているため摘み取ります。



摘み取った葉はすべて袋に回収しまとめて焼却。



【ジャガイモ・トウモロコシ観察】 最近の好天にも恵まれ順調に成長しています。ジャガイモは8月、トウモロコシは9月に収穫予定です。



一月前に植えたジャガイモがどうなっているのか関心が高まります。



成長の早いものは花のつみみを付けていました。



ジャガイモの茎と葉は30cmほどに元気に育っています。



手前の苗植えのものは約30cmに、奥の種植えのものは約10cmと生長に差がありました。

【野菜苗植え】 カボチャ、落花生、サツマイモ、枝豆を植えました。



カボチャは約30cmに育った苗を取り寄せました。



あらかじめ空けられた窪みの深さを自分の手で調整し苗を置きます。



深さを見極めながら苗の周囲に土をかけます。



植付けが終わり30本が整然と並んでいます。



落花生を30本、畝を作って植えます。高温乾燥を好むという性質があり、この札幌での栽培はどのような結果になるのかスタッフも心配しながらの試みです。



落花生の苗はポットに入っています。

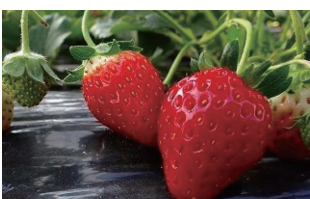


サツマイモを54本植えます。この苗は昨年準備してきたもので、葉のついた蔓(つる)約30cmを使います。日当たりと水はけがよく、土はやせぎみのところを選びます。



畝にかけられた緑色のマルチには30cm間隔で切れ目が入れている。そこに約10cmの深さで筋を切り、マルチから葉が出るように苗を横たえます(水平植え)。土をかけておしまい。収穫は10月の予定。

イチゴ収穫 露地もハウスも完熟イチゴ。去年9月から丹精込めて育てられた、つやつやしたイチゴを口に入れるとだれもが笑顔になり「おいしい！」と声をあげます。



発行: 砥山農業小学校 (代表 桜井学)
住所: 〒061-2275
札幌市南区砥山126番地
八剣山果樹園内
電話・FAX: 011-596-2280
E-mail: info-h@hakkenzan.jp
<http://www.hakkenzan.com/nosyo/>